

原水爆禁止二〇二〇年世界大会が挙行
されおすこと 心よりお慶び申し上げ
おす

今年 は 広島 長崎への原爆投下から
七十五年の節目の年となりおすが
今もなお 一万二千発を超える核兵器
が蓄積 配備されていおす

かけがいのない命を奪った悲しみの歴
史を二度と繰り返すことのないよう
平和の意義と世界中の多くの人に伝え
ることが 人類全体の願いである恒久
平和の確立に向けた取り組みであると
考えおす

赤筆ながら 本大会のご成功と皆様方
のご活躍 ご健勝と心からお祈り申し
上げおす

令和二年八月

奈良県葛城市長 阿古 和彦

原水爆禁止2020年世界大会の開催にあたり、ご盛会をお祝い申し上げます。

核兵器も戦争もない平和で安全な社会の実現は、人類共通の願いであります。しかし、今もなお、テロや内戦は繰り返され、世界には約1万発の核兵器が現存するとされています。日本は被爆経験国として、かけがえのない多くの命を失った代償を誓いとして、原水爆禁止を訴え続けていかなければなりません。

我が斑鳩町におきましても、1985年（昭和60年）9月27日に非核平和都市の宣言を行い、また、2009年（平成21年）には、世界各国の都市で構成された「平和首長会議」の基本理念や活動趣旨に賛同し、同会議に加盟をいたしました。そして、2017年（平成29年）には、核兵器廃絶を求める決議が議会の満場一致で可決されました。

核兵器のない平和で希望に満ちた社会の実現に向け、我が国の世論と運動が果たす役割は重要でありますことから、引き続き、町民の皆様とともに積極的に取り組む所存でございます。

本大会が、意義ある大会となりますよう祈念申し上げますとともに、皆様方のご健勝ご多幸をお祈りいたしまして、私のメッセージとさせていただきます。

令和2年7月1日

奈良県斑鳩町長 中西 和夫

原水爆禁止2020年世界大会へのメッセージ

2020年は、広島・長崎の被爆から75年という節目の年ではありますが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、やむなく平和行進が中止となったことは誠に残念であります。

しかし、奈良県では、今年2月に「ヒバクシャ国際署名推進奈良県民の会」が結成され、世界に向けて核兵器保有等を禁止していこうという機運が高まりつつあると実感しているところであります。

私たちも、これをきっかけに、核兵器が全世界の人々の命を危険にさらしているということを再認識し、また、二度と過ちを犯さないよう訴え続けなければなりません。

本町では、昭和60年に「核兵器廃絶平和宣言」を行い、微力ながら平和行政を推進してまいりました。公共施設や町の看板には「核兵器廃絶宣言のまち」を掲げ、PRさせていただいております。

平成22年2月から、核廃絶のために世界160カ国以上の国、7,500以上の都市が連携する「平和首長会議」に加盟し、また、平成24年4月には、長崎市が事務局となっている「非核宣言自治体協議会」にも加入いたしました。

さらに、「北東アジア非核兵器地帯を求める国際署名」にも賛同するなど、平和行政への取り組みを行っているところです。

日本は、人類の歴史で唯一、核兵器被爆国となっています。

核兵器も戦争もない平和な世界の実現に向けて今後、この運動がますます広がり、平和な世界が築かれることを切に願います。

最後になりましたが、原水爆禁止2020年世界大会が、所期の目的を達成されますことをお祈りいたしまして、私のメッセージといたします。

令和2年7月8日

広陵町長 山村 吉 由

原水爆禁止 2020 年世界大会（オンライン）への
メッセージ

世界の恒久平和と核兵器廃絶の実現を目指して、長きにわたり活動されている皆様には、心より敬意を表します。

核兵器の廃絶と平和の実現は、平和を求めるすべての国々の願いではありますが、世界においては依然として核の脅威が存在し、紛争やテロ行為が後を絶ちません。

戦争を知らない世代が増加していく中で、世界で唯一の被爆国である我が国が国際社会の先頭に立ち、核兵器の悲惨さと平和の尊さを次の世代に訴え続け、思いを引き継がなければなりません。

本町におきましては、昭和61年9月に「非核平和都市宣言」を行い、毎年様々な事業を実施しております。今年は、コロナウイルス感染拡大防止のため非核平和事業は縮小しての開催予定ではありますが、核兵器の廃絶と平和を願う皆様の行動が全世界に届くことを強く願っております。

終わりに、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、メッセージとさせていただきます。

令和2年7月6日

奈良県三郷町長 森 宏 範